

(1) これまでの授業の取り組みと今後に向けて

潮見小では、

- 英語を使って子どもたちのコミュニケーション力を高める
- 外国の文化を知り、日本との違いを考える
- 表現を使う場面を設定し、一人ひとりが英語を実際に用いて話す



この3点を中心に取り組みを進めてきました。もちろん基本は、コミュニケーションの素地です。今後、3点目の場面設定を大切にしたい取り組みを重視していこうと考えています。

どんな場面でいつ使うかを大事にする

活用 3つのポイント

目的 相手 場面・状況

実際の生活と結び付けられるとよりよい
すぐにはできないことも多いので、

先生方も small step で行きましょう！

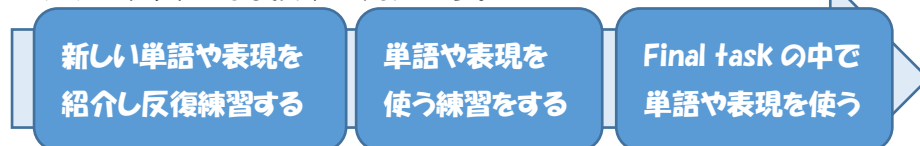
もう一つ英語を学習する際に大切なことは…「曖昧さに耐える」と言われています。どんなことを言っているのだろう？と推測させることが大切です。これを達成するためには、英語を子どもたちに浴びせる必要があります。どの先生も「英語を使うんだ！」という“意識”を持つことが必要です。

(2) 現在行っている取り組み

H29年度潮見が丘小学校では、授業公開(管内研・主事訪問での5年生外国語活動公開と松原の授業公開)と校内研修を行いました。校内研修では、授業の構成とその授業の構成の中で行うと効果的な単語の紹介の仕方やチャンツ、アクティビティについて活動を交えて行いました。また、できる限りクラスルームイングリッシュを使うこともお話ししました。外国語活動は、先生方自身も活動を体験することが必要だと考えています。

(3) 授業の構成について

以下は、典型的な授業の流れです。



Final task (最終タスク) とは、survey (調査) や Role play など、学習した単語や表現を使う場面や活動のことで、単元または1時間の授業の最後にどんなことができているかを意識しながら設定します。

Final task: Do a toy-shop role-play
 Key phrase: Can I have a soccer ball, please?
 Vocabulary to teach: a soccer ball, a bag of marbles, …



校内研修の様子

上記では Final task はおもちゃ屋さんのロールプレイです。そのために必要な単語は、ただの soccer ball ではなく、a soccer ball となります。表現の中でどのようにその単語を使うのかを意識して練習をする必要があります。

この Final task については、「バックワードデザインによる単元づくり」と関連しています。単元の目標を明確にし、単元の終末を意識し、バックワードデザイン(最後の姿から目標達成に向けた取組)で単元計画を作成するとよいです。

- 児童に何をしてほしいかを考える (=Final task)
- Final task を実践するために必要な言葉を教えることが大切

(4) ALT との協力・連携

ALT との TT の役割と効果について「外国語活動・外国語研修ガイドブック」には以下のように書かれています。

学級担任の役割

○授業のコーディネーター

・「児童の言いたいことを引き出す」「英語で言えないことを代弁する」など、児童の学習をサポートする。

・児童の反応を見て、ALT の発言を止め、繰り返させたり、ゆっくり言わせたりするなど、ALT と児童をつなぐ。

○授業をデザインする

・児童の発達段階に応じた内容、他教科等と関連させるなど、児童の興味・関心を生かした活動を考える。

ALT の役割

○コミュニケーションの相手

・実際に英語を使う体験

・外国の人に直接触れる体験

○ネイティブ・スピーカーとしての英語力

・生きた英語によるインプット

・発音のモデル

・児童がコミュニケーションを体験することができる。

(例) モデル会話、児童とのインタラクション※

・英語の使用量が増える

・評価の分担ができる

効果

※インタラクション…対話的やり取り

上記のような役割を考え、分担の工夫をすることが大切です。

工夫の例

① 挨拶や warm-up (Q&A) 【ALT】

④活動【担任】

② Warm-up (英会話) 【ALT】

・デモンストレーションは担任と ALT ・中間評価やアドバイスは担任

③ 課題 (Today's goal) の提示【担任】

⑤まとめ・振り返り【担任】

※中間評価とは…「会話を広げる」場面。活動→友だちのよい活動を見せる→また活動

今年度潮見小にはベサニ先生が来てくれています。ALT の先生と学習できる機会はとても貴重です。できる限りたくさんの英語を話してもらい、英語に慣れることを大切にしています。また、会話の相手としても大切な存在です。ベサニ先生に積極的に子どもたちの中に入ってもらい、活動と一緒にいる中で、子どもたちもどんどん話しかけていくようになってきました。今後は、small talk や活動の場面で、担任または ALT の先生に必ず1回は英語で話すことに取り組んでいきたいと考えています。



外国語活動で大切にしたい文化。10月31日には、ハロウィンの数多くの写真を準備いただき、英語で説明してもらいました。日本と違うハロウィンの文化に子どもたちはとても驚いていました。 絵本の読み聞かせ



6年生の Lesson6 では世界についてたくさん知る機会があります。3 hint quiz で外国の有名な人・もの・建物などを紹介してもらいました

やチャンツをジェスチャーをつけながら歌ってくれたりもします!